一一ッチ トップをめざす 企業探訪 ⑬

# 株式会社 田辺鉄工所

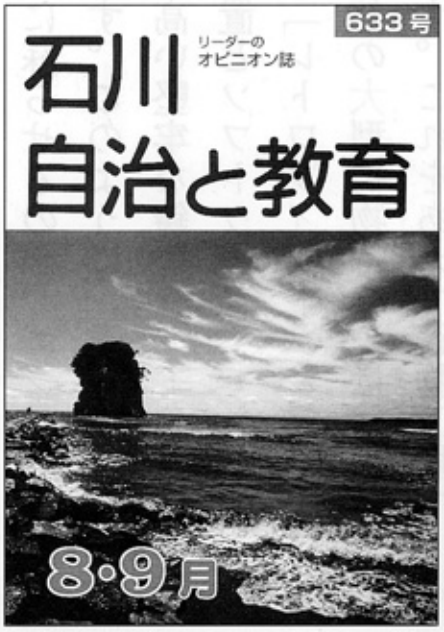
## 「夏果てて秋の来るにはあらず」

田辺鉄工所は明治三十七年に東京墨田区で、円筒研磨盤を製造する工作機械メーカーとして創業しました。しかし、都内に三か所あった工場はすべて戦時中の空襲で被災し、金沢に疎開していた工場だけが残りました。戦中から始めた木工機械が中心でしたが、現在では産業機械や工作機械が主力になっております。

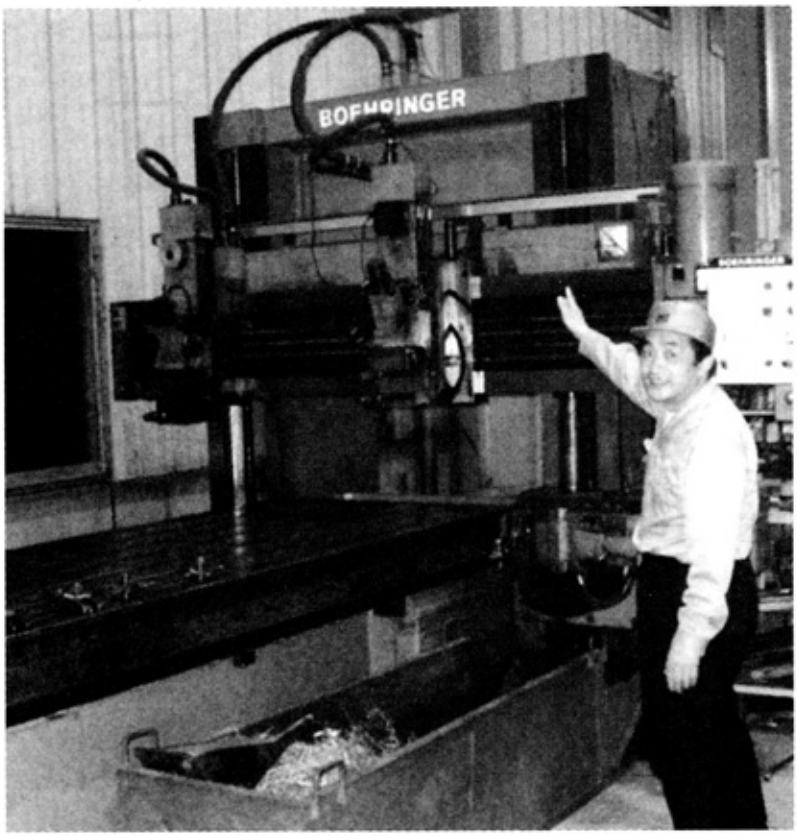
昭和二十八年、当時の昭和天皇が来県中に石川県庁にて、田辺鉄工所の木工機械が天覧に与り、私自身が機械の運搬をしたのは懐かしい思い出です。これも日本の住宅復興のシンボル的機械だったからでしょう。

昭和三十七年に田辺鉄工所から独立して、出身地の志賀町で田辺鉄工所の機械販売や修理を中心とした「日高商店」（現在の「日高機械」）を創業しました。もともと自分は機械職人でしたから、地元田鶴浜の建具職人の要望に応える建具関連木工機械を開発して製作し、販売を始めました。

昭和五十七年に歴史ある田辺鉄工所を引き継いで、富山県高岡市のアルミサッシメーカーなどに納入する加工機やトラックのボディを加工する大型特殊機械の製造も手掛けました。



# 程度の良い大型工作機械を集めるというビジネスモデル



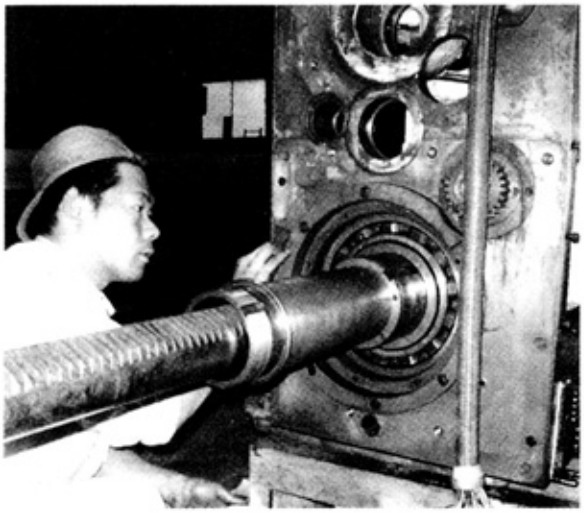

堅牢な鋳物ベッドの工作機械は、鋳造したばかりの時よりも時間が経過していれば「枯れた」状態となります。鋳物の内部応力がなくなり安定し、高い精度が維持できるようになるためです。ちょうどケヤキ材を長期間枯らして、安定した状態で使用するのに似ています。

設備の更新や工場の整理統合などで出てきた大型で程度の良い機械を、自分の目で確かめ、買い集めました。購入した工作機械は、今では工場敷地内に数百台ほど保有しています。地価の安い能登だからこそ出来るビジネスモデルであり、この工作機械は社員の技術教育にも役立っています。先人の技術者が苦労して作り上げた機械は、その構造や性能、技術をつぶさに語ってくれますし、残されている設計図からの情報が、さらに理解を深めさせてくれます。

我が社の大型マザーマシーン（機械を作る工作機械）は、この工作機械の機械精度を高め、現代のコンピューターと制御を付加することで、最新型とそん色のない性能を発揮させるどころか、それ以上にさえなります。機械的にはしっかりしたものを、さらに現代の技術で高度に蘇らせるのが、エンジニアとしての働きどころです。このように、現在では鋳造できない付加価値の高い堅牢な鋳物ベッドの工作機械を、現代の制御装置とソフトウエアーでさらに有効活用させることを「レトロフィット」と言います。ベースとなる主要部の大型鋳物は今では鋳造することが困難な代物です。これをあえて鋳物工場で

作らせるとすれば、大変高価なものになってしまい、採算の合わないものになってしまいます。工作機械が使い古される前に、程度の良いものばかりを買い集めました。

「夏果てて秋の来るにはあらず」吉田兼好の『徒然草』の一節です。「夏が終わってから秋が来るのではない。夏の間に秋の気配が作りだされている」という意味です。この様に程度の良い鋳物ベッドの大型工作機械は、現在入手が難しくなっております。幅三メーター、長さ十四メーターの削れる超大型プレーナー（新潟鉄工製）や二メーター×六メーターのベッド研磨機（住友芝浦製）などのマザーマシーンを持っていることが、我が社の特色です。


レトロフィット中の工作機械

レトロフィットに限らず、新幹線の車体加工機のような大型機械の注文にも応じられる設備体制になっていると自負しています。もともと、新規の受注に応じた専用機械の設計製造が主体でしたから、得意分野をさらに生かした展開がレトロフィットと言えるでしょう。

## 存在感のある会社に

木材は金属よりも柔らかいですが、材種や乾燥度合いで一本一本には微妙な違いがあります。職人の感覚で思い通りに加工する木工機械を開発することは金属加工機より難しい場合があります。社寺仏閣の木材加工では精度と複合加工が要求され、さらに住宅メーカー用のプレカット機などは全自動運転と量産性能も要求されます。

今回の不況時でも注文の減らない分野もあります。平成二十五年の伊勢神宮式年遷宮用のために加工機械の納入も始まりました。沖縄首里城の復元工事の機械や倶利伽羅不動尊の新築、金沢城菱櫓でも当社の機械が活躍しました。

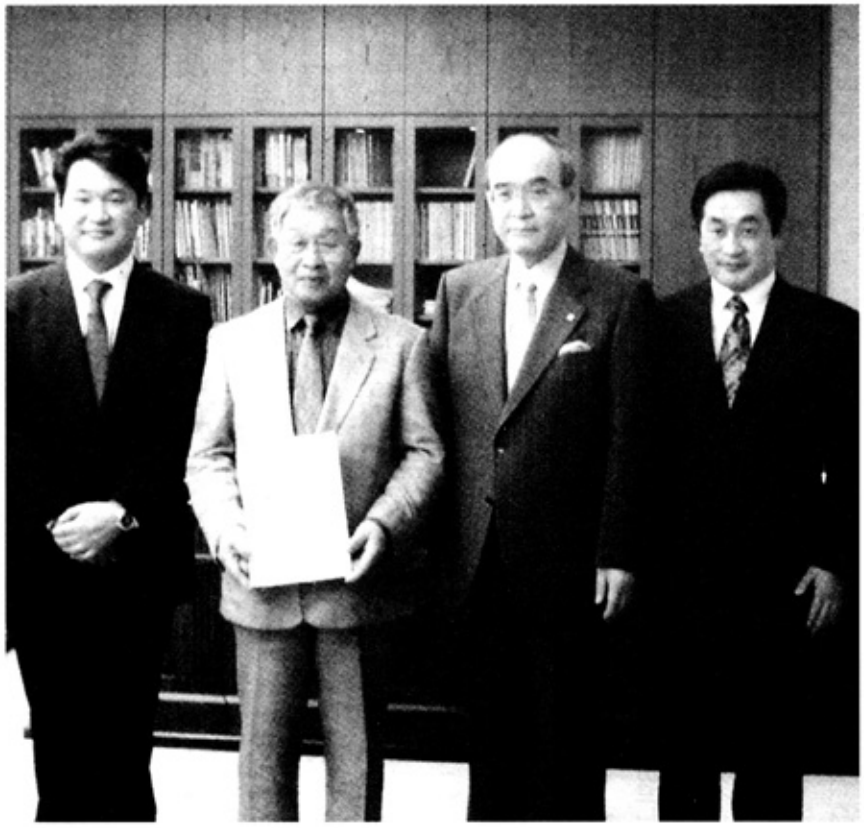
ユーザーの多様なご注文や仕様にも対応し、場合によっては在庫のレトロベース機械を使うなど、出来るだけ手頃な価格で提供します。もちろんこれまでの実績も大切にしていきます。

## これからの機械屋の生き方

当然のことですが、大量生産・大量廃棄の時代は終わりました。中古の機械も活用し、最新の制御装置と新しい部品を取り付け再活用する（レトロフィット）技術も大切な「柱」としていきます。精度の高い機械であっても専門的知識を持ったオペレーターに限らず、誰でも簡単に操作できるようにするのも機械屋の仕事なのです。

これからも、より高度な加工のできる機械が要求されてくるでしょう。どんな分野においても「必要とされる道具」となる機械を提供するのが機械屋の腕の見せ所だと思い、これからも頑張っていきたいと思います。

（談　森田記）



**―会社のプロフィール―**

| | |
|---|---|
| 会社名 | 株式会社　田辺鉄工所 |
| 本社 | 金沢市小橋町五の三五<br>☎〇七六七（三二）三六六三（志賀工場） |
| 代表者 | 代表取締役社長　日高　明正 |
| 設立 | 明治三十七年十一月 |
| 資本金 | 一千万円 |
| 事業内容 | 産業機械、工作機械、木工機械、プレカット機械、アルミ形材加工機械、セラミック外壁材加工機、他 |
| 従業員 | 二十九名 |